

科目名	地域文化と人間行動			ナンバリング	PSY531	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	林洋一	担当教員					

授業の概要	アフリカ大陸で誕生した人類は、比較的短期間でその生息域を地球全体近くにまで拡大していった。そして、それぞれが定住した地域の自然環境に適応し、独自の文化を築き、社会を発達させてきたのである。この講義では「地域」をキーワードとして心理学・文化人類学・経済学などの様々な学問の知見を取り入れ、地域社会をより深く理解するとともに、その中ででの人間行動について整理し説明することができるようになることを目標とする。						
到達目標	①人が生きていく基盤としての「地域」について理解し、説明することができる。 ②「地域差」、「文化差」という概念を適切に理解し、説明することができる。 ③受講者自身が地域社会の一員としてどのように地域に貢献し、地域の発展に寄与できるかを考えて行動することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	国民性や県民性、さらには比較文化・文化心理学に関する新書など、社会や文化に関する啓蒙的な入門書を何冊か読むことを勧めたい。また、新聞の地方版にどのような記事が掲載されているかを調べることも、授業のより深い理解に役立つことがある。さらに、自分自身が生まれ育った地域を知り、そのよさや問題点について考えることも大切である。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 文化について、また地域差について理解し、説明することができる。 2. わが国の大都市と地方都市、町村の現状を知り、それぞれの地域の利点と問題点、及び地域社会の望ましい在り方について自分の意見をまとめることができる。	1. 文化についての基礎的な理論を理解し説明できるだけでなく、それらについての自分の意見をまとめて論じることができる。 2. わが国の大都市と地方都市、町村の現状や問題点を適切に認識し、より望ましい方向に発展させるためにはどのような施策が必要かについて、自分の意見をまとめ、適切に提示することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○				70%
小テスト・授業内レポート	○	○	○		○		10%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		10%
授業態度・授業への参加		○	○	○	○		10%

課題、評価のフィードバック	小テスト、課題レポートについては、manaba上でフィードバック(評価を含む)を行う。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	地域文化とは何か①	地域とは何かについて、辞書的意味を調べて整理する。また、自分が居住している地域の特徴を調べて整理する。	
	第2回	地域文化とは何か②	前回の講義時に提示された事項について、事前学習を行う。また、日本における地域差について整理しまとめる。	
	第3回	地域差と文化差①	大都市と地方都市、町村部との差異についての認識を深める。ビデオ映像資料を視聴し、地域差についての認識を深める。	
	第4回	地域差と文化差②	大都市と地方都市、町村部との差異についての認識を深める。とくに現状と問題点について考察する。	
	第5回	地域差と文化差③	大都市と地方都市、町村部との差異についての認識を深める。今後の検討課題について、考えをまとめ整理する。	
	第6回	「地方の時代」という幻想①	地方の時代という言葉がなぜ「流行語」になったのか、その背景について整理し、まとめる。	
	第7回	「地方の時代」という幻想②	地方の時代という言葉がなぜ「幻想」と言われるようになったのか、地方の現実という視点から考察し、整理する。	
	第8回	「地方の時代」という幻想③	地方の時代を「復権」するためにはどうしたらよいかについて考察し、将来への展望を考える。	
	第9回	地方復興の兆し①	地方都市や町村での先進的な試みを通して地方の復興を考えるとともに、そのような活動をどう広げていくかについて意見を述べることができる。	
	第10回	地方復興の兆し②	地方都市や町村での先進的な試みを通して地方の復興を考えるとともに、そのような活動をどう広げていくかについて意見を述べることができる。	
	第11回	地方復興の兆し③	地方都市や町村での先進的な試みを通して地方の復興を考えるとともに、そのような活動をどう広げていくかについて意見を述べることができる。	
	第12回	地域研究の視点 ①心理学の立場から	心理学の立場からの地域研究について、具体的な研究例を通して考察する。	
	第13回	地域研究の視点 ②文化人類学の立場から	文化人類学の立場からの地域研究について、具体的な研究例を通して考察する。	
	第14回	地域研究の視点 ③生活者の立場から	地域に生きる生活者としての立場からの地域研究について、具体的な例を通して考察する。	
	第15回	まとめ	講義内容をまとめ、整理する。	
	試験	試験を行う。		
授業の進め方		基本的に講義形式であるが、特定のテーマについて、また提出されたレポートについて全員で討論することがある。また、多様な資料映像を視聴し、考察する。		
授業外学習の指示		授業時に提示された資料、資料映像等を通して学んだことを整理し、自分なりにまとめる。 （授業外学習時間： 毎週 180 分）		

教科書	使用しない。
参考書	授業時に紹介する。
参考URLなど	
その他	地域の実態について知るため、映像資料を視聴する。